

1. 件名：福島第一原子力発電所における2月13日の地震を踏まえた今後の評価に係る面談
2. 日時：令和3年4月8日（木）10時00分～11時10分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁 原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、伊藤係長、横山係長
高木技術参与
地震・津波審査部門
江崎企画調査官、千明主任安全審査官
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室 担当2名
福島第一原子力発電所 担当20名
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構（テレビ会議システムによる出席）
担当4名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、3月26日の面談で原子力規制庁より説明を求めた2月13日の地震を踏まえた影響評価に係る対応方針と今後のスケジュールについて、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - 現在審査中の案件である「放射性物質分析・研究施設第2棟の設置」については、弾性設計用地震動 S_d による建屋地震応答解析を行っており、建屋のひずみは概ね弾性範囲内、設備については許容応力以内であることを確認している。
 - 現在審査中の案件である「大型廃棄物保管庫の架台等の設置」については、 S_d での評価はこれまで行っていない。
 - 福島第一原子力発電所全体として、2月13日の地震に対して、観測記録から上部地盤の影響（反射波）を取り除いた解放基盤面からの入力地震動（はぎとり波）を作成し、評価すべき地点の地震応答解析を行い地表面加速度を算定し、それをを用いて設備の耐震評価を行っていく。
- 原子力規制庁は、上記の説明を受けて、
 - 「放射性物質分析・研究施設第2棟の設置」については、 S_d と2月13日の地震による解放基盤面からの入力地震動（はぎとり波）との比較を説明した上で、 S_d による建屋地震応答解析結果及び設備に対する確認結果について早急に説明すること。
 - 「大型廃棄物保管庫の架台等の設置」については、評価方針とスケジュールを早急に示すこと。
 - 現在ボックスカルバートの増設による保管容量の変更について審査中である「使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）」についても、ボックスカルバートが耐震 B クラスの設備であるため、影響評価を早急に示すこと。を求めた。

- 東京電力より、「放射性物質分析・研究施設第2棟の設置」及び「大型廃棄物保管庫の架台等の設置」は約2週間後目途に説明を行う旨、「使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）」については地表面加速度の算定が終了する5月頭以降5月中旬を目途に影響評価の説明を行う旨、回答があった。

6. その他

資料：

- 福島第一原子力発電所 地震後における設備への追加点検及び耐震評価の検討状況
- 放射性物質分析・研究施設第2棟における2月13日及び3月20日の地震を受けた状況について
- 大型廃棄物保管庫の揚重設備及び架台設置に係る実施計画の変更について（2/13地震を受けた対応）

以上